

日本思想史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史特論Ⅰ	江戸時代の紀行文を読む	2	引野 亨輔	2学期	月	4	日本思想史特論Ⅰ
日本思想史特論Ⅱ	「辺境」の観点から日本思想史を再考する	2	片岡 龍	1学期	月	5	日本思想史特論Ⅱ
日本比較思想史特論Ⅰ	「辺境」の観点から日本思想史を再考するⅡ	2	片岡 龍	2学期	月	5	日本思想史特論Ⅲ
日本文化思想史特論Ⅰ	東北思想の系譜と射程	2	河西 英通	集中(2学期)			日本思想史特論Ⅴ
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔 片岡 龍	1学期	水	4	日本思想史研究演習Ⅰ
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔 片岡 龍	2学期	水	4	日本思想史研究演習Ⅱ
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔 片岡 龍	1学期	水	5	日本思想史研究演習Ⅲ
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔 片岡 龍	2学期	水	5	日本思想史研究演習Ⅳ

科目名：日本思想史特論Ⅰ／History of Japanese Thought(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔（准教授）

講義コード：LM21401， 科目ナンバリング：LJS-PHI601J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

江戸時代の紀行文を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading the Travelogues Written During the Edo Period

3. 授業の目的と概要：

現代人にとって、旅の体験は思想形成に大きな影響をもたらすが、庶民層もようやく安心して旅を楽しめるようになった江戸時代の人々にとって、旅の学習効果はさらに大きなものであった。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に記された幾つかの紀行文を読んでもらい、思想形成過程の分析手法を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

For modern people, the experience of travel has a great influence on the formation of thought. But for the people of the Edo period when the general public became able to enjoy traveling with confidence, the learning effect of travel was even greater. In this course, students will read some travelogues written in the Edo period and learn the analytical methods of the thought formation process.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、江戸時代に記された紀行文の読解を通じて、思想形成過程の分析手法を身に付けることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The goal of this course is to acquire the analytical methods of the thought formation process through reading the travelogues written during the Edo period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から学ぶ①—八木清治『旅と交遊の江戸思想』—

第3回：橋南谿『東遊記』を読む①—旅と学び—

第4回：橋南谿『東遊記』を読む②—旅人がみた東北の風俗—

第5回：橋南谿『東遊記』を読む③—江戸時代の水土論—

第6回：橋南谿『東遊記』を読む④—江戸時代の名所論—

第7回：橋南谿『東遊記』を読む⑤—知識人のネットワーク—

第8回：橋南谿『東遊記』を読む⑥—紀行文からみる江戸時代—

第9回：先行研究から学ぶ②—鈴木理恵『近世近代移行期の地域文化人』—

第10回：古川古松軒『東遊雑記』を読む①—旅立ちの背景—

第11回：古川古松軒『東遊雑記』を読む②—様々な東北観—

第12回：古川古松軒『東遊雑記』を読む③—江戸時代の東国・西国—

第13回：古川古松軒『東遊雑記』を読む④—国ぶりの誕生—

第14回：先行研究から学ぶ③—羽賀祥二『史蹟論』—

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、平常授業への参加度 30%、小レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

参考書：『旅と交遊の江戸思想』（八木清治、花林書房）、『近世近代移行期の地域文化人』（鈴木理恵、塙書房）

10. 授業時間外学習：

発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：片岡 龍（教授）

講義コード：LM11501， 科目ナンバリング：LJS-PHI602J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論Ⅱ】

1. 授業題目：

「辺境」の観点から日本思想史を再考する

2. Course Title (授業題目)：

Reconsidering the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier"

3. 授業の目的と概要：

日本思想史を「辺境」の観点から再考することを目的とし、テキスト（A 片岡龍『16 世紀後半から 19 世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における＜朱子学＞遷移の諸相』、B 真壁仁・野添憲治『民衆史としての東北』）を精読した発表をもとに、討論をおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier", and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.

5. 学習の到達目標：

「辺境」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to share the problem of "Frontier", and to develop the ability to set a research topics across specialties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：B「序一化外の風土・東北」

第 3 回：A「序論」

第 4 回：B「未墾地に挑んだ女房たち」

第 5 回：A「李退溪（1501-70）の「心は神明の舎」観」①

第 6 回：B「鉱山史のなかの民衆」

第 7 回：A「李退溪（1501-70）の「心は神明の舎」観」②

第 8 回：B「米代川流域の民と秋田杉」

第 9 回：A「李退溪の「理発」「理動」「理到」①

第 10 回：B「馬をめぐる幻視の古代」

第 11 回：A「李退溪の「理発」「理動」「理到」②

第 12 回：B「海に生きた下北の民」

第 13 回：A「退溪門下から旅軒・張顕光（1554-1637）にいたる「公共」①

第 14 回：B「稲作農民と品種の探求」

第 15 回：A「退溪門下から旅軒・張顕光（1554-1637）にいたる「公共」②

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：

発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本比較思想史特論Ⅰ／Comparative history of Japanese thought(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：片岡 龍（教授）

講義コード：LM21501， 科目ナンバリング：LJS-PHI603J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論Ⅲ】

1. 授業題目：

「辺境」の観点から日本思想史を再考するⅡ

2. Course Title (授業題目)：

Reconsidering the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier"2

3. 授業の目的と概要：

日本思想史を「辺境」の観点から再考することを目的とし、テキスト（A 片岡龍『16 世紀後半から 19 世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における＜朱子学＞遷移の諸相』、B 真壁仁・野添憲治『民衆史としての東北』）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier", and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.

5. 学習の到達目標：

「辺境」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to share the problem of "Frontier", and to develop the ability to set a research topics across specialties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：B「碑は語る ある義民伝承」

第 3 回：A「藤原惺窩（1561-1619）とその周辺の「天道」観」

第 4 回：B「人権の目覚めと私塾教育」

第 5 回：A「中江藤樹（1608-48）の「神理」と＜朱子学＞」

第 6 回：B「東北線機関方」

第 7 回：A「伊藤仁斎（1627-1705）における「心性」と「経世」」

第 8 回：B「昭和恐慌期と北方の教師たち」

第 9 回：A「荻生徂徠（1666-1728）の「天命」説と「修辞」論①

第 10 回：B「津軽人の気質と風土」

第 11 回：A「荻生徂徠（1666-1728）の「天命」説と「修辞」論②

第 12 回：B「終一『民衆史としての東北』の課題」

第 13 回：A「蔡温（1681-1761）における「心学」と「実学」

第 14 回：A「大田錦城（1765-1825）と丁茶山（1762-1836）における「生命」と「靈性」①

第 15 回：A「大田錦城（1765-1825）と丁茶山（1762-1836）における「生命」と「靈性」②

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：

発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本文化思想史特論 I / History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 (2 学期), 単位数：2

担当教員：河西 英通 (非常勤講師)

講義コード：LM98802, 科目ナンバリング：LJS-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史特論 V 】

1. 授業題目：

東北思想の系譜と射程

2. Course Title (授業題目)：

Genealogy and Range of Tohoku Thoughts

3. 授業の目的と概要：

地域の視点に立った近代日本思想史の再描写・再構成をめざして、東北地域を対象に地域思想の系譜と射程を考察する。明治維新以降、1960 年代のいわゆる高度経済成長期に至る近代化の過程で、いかに東北思想が形成され、どのような機能を果たしてきたのかを、東北各地の民衆資料・地域史料に見られる言説を検討することを通して、考えてみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purpose of this class is to study the genealogy and range of regional thoughts based on Tohoku area. Through this studying, we try to redraw and rebuild the modern Japan thought history from the viewpoint of region. Concretely, we think how Tohoku thoughts were formed and were functioning between Meiji Restoration and High economic growth period, by considering various discourses appeared in regional documents,

5. 学習の到達目標：

近代日本思想史を東北地域の視点からとらえ直すことを通して、思想の全国性と地域性の関連やナショナルヒストリーの多層性・多元性についての理解を獲得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To understand the relations between national character and regional character on Thought and notice multilayer or pluralism on national history, by considering the modern Japan thought history from the viewpoint of Tohoku region,

7. 授業の内容・方法と進度予定：

0：ガイダンスーなぜ東北思想を考えるのかー

1：民衆思想と地域思想ー思想形成のメカニズムー

2：東北史研究と戦後歴史学ー東北はいかに学問されてきたのかー

3：戊辰戦争・明治維新と東北の誕生ー奥羽から東北へー

4：「白河北一山百文」考ー自己認識と他者認識のはざまー

5：立憲制と東北論ーナショナルな空間とリージョナルな生活ー

6：開発と東北ー後進地・植民地論のなかでー

7：東北史の形成ー日本史・世界史との対比ー

8：凶作・飢饉のイメージー歴史表象の重圧に対抗するー

9：海と雪と東北ー東北は一つではないー

10：東北像の造形ーステレオタイプはいつでも新しいー

11：戦争と地方主義ー加害と被害の相関性ー

12：むのたけじの東北主義ー怨みと望みー

13：東北の革命家と地域アイデンティティーー東北を救う？ー

14：まとめー3・11と東北思想ー

8. 成績評価方法：

レポート提出

9. 教科書および参考書：

河西英通『東北』中公新書、2001

河西英通『続・東北』中公新書、2007

河西英通『「東北」を読む』無明舎、2011

Hidemichi Kawanishi, Tohoku: Japan's Constructed Outland, BRILL, 2015

河西英通『「社共共同」の時代』同時代社、2019

10. 授業時間外学習：

とくになし

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

I hope all of you enjoy this class!

科目名：日本思想史総合演習 I / History of Japanese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔.片岡 龍（准教授、教授）

講義コード：LM13401， 科目ナンバリング：LJS-PHI605J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習 I 】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

プレジюмеは 1 週間前、本レジюмеは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔.片岡 龍（准教授、教授）

講義コード：LM23401， 科目ナンバリング：LJS-PHI606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：

演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

プレレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習 I / History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍（准教授、教授）

講義コード：LM13501， 科目ナンバリング：LJS-PHI607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことにより、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

プレジюмеは 1 週間前、本レジюмеは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：引野 亨輔. 片岡 龍 (准教授、教授)

講義コード：LM23501， 科目ナンバリング：LJS-PHI608J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本思想史研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：

演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

研究論文の作成

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

プレレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

